

ひまわり薬局 だよい

発行者 (有)ファルマやまがた ひまわり薬局

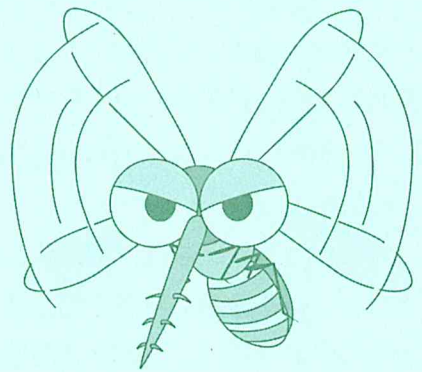
〒998-0044 山形県酒田市中町三丁目7番1号 TEL (0234) 22-2662

蚊にご注意！～蚊による感染症～

昨年国内で感染が広がり問題となった「デング熱」は記憶に新しいと思いますが、蚊を介する感染症は他にも多くあります。どんなものがあるか、主なものを挙げてみましょう。

デング熱

昨年の夏、東京の代々木公園を訪れた人達を中心に感染者が報告されました。デング熱は、東南アジア、南アジア、中南米、カリブ海諸国などで発生し、ウイルスを持っているネッタイシマカやヒトスジシマカなどに刺されることで感染します。発熱で始まり、頭痛、筋肉痛、関節痛などの症状がでます。発症後3～4日後に胸部や体幹に発疹が現れ、その後末梢へと広がっていきます。ほとんどの場合自然によくなりますが、重症型のデング出血熱になると出血傾向が強くなり、さらに重症になると頻脈や脈圧低下などがみられ、ショック症状に陥る場合があります。



ウエストナイル熱

1973年にウガンダのウエストナイル地方で初めてウイルスの存在が確認された感染症で、夏から秋にかけてアフリカ、ヨーロッパ、中東、アメリカ、カナダなど広い地域で流行がみられます。蚊を介して人や馬、鳥に感染するもので、国内感染例は認められていませんが、日本への侵入が心配されています。80%の人はウイルスに感染しても症状がでませんが、発熱、頭痛、筋肉痛、食欲不振などの症状がでたとしても通常1週間以内で回復します。ただ、頻度は少ないですが、髄膜炎や脳炎をおこして死に至るケースもあります。

チングニア熱

アフリカ、南アジア、東南アジアで感染がみられ、日本でもそういった地域からの帰国者の発症例が報告されています。デング熱と同じように、ウイルスを持つネッタイシマカやヒトスジシマカなどに刺されて発症します。症状もデング熱とよく似ていて、38度以上の高熱と強い関節痛を生じて8割程度の人に発疹がみられます。関節痛は数週間から数ヶ月続く場合もあり、重症例では、脳症や劇症肝炎を併発することもあります。

日本脳炎

日本に古くから存在する感染症で、豚の間でウイルスが広がり、ウイルスを保有する豚を吸血したコガタアカイエカに刺されると感染します。感染しても発病するのは100～1000人に1人程度ですが、高熱、頭痛、吐き気、意識障害を伴う脳炎をおこし、20～40%が死亡しています。回復しても約50%は後遺症が残ります。日本では定期予防接種の普及により、ほとんど流行はなくなっています。

マラリア

アフリカや中南米、東南アジアなどで発生し、多くの国で流行がみられます。世界で年間約2億人が発症し約200万人が死亡しているという、蚊による感染症の中で最も怖いものです。日本でも流行地から帰国して発症する人が報告されています。

ハマダラカに刺されることで、マラリア原虫が体内に侵入して発症します。マラリアには、熱帯熱マラリア、三日熱マラリア、卵型マラリア、四日熱マラリアの4種類がありますが、最も危険なのが熱帯熱マラリアです。発熱、悪寒が主な症状ですが、脳症、肺水腫、急性腎不全、重度の貧血などの合併症がおきて死に至ることもあります。

蚊による感染症は遠い国の事と思いがちですが、海外に行っていなくても様々な感染症が流行している地域と日本の間を多くの人が行き来しているため、実は意外に身近であり、国内でも感染が広がる危険性があります。

今回取り上げた感染症のうち、マラリアには予防薬や治療薬があり、日本脳炎にはワクチンがありますが、その他の感染症にはワクチンや特効薬はなく、対症療法が中心です。どれも人から人への感染はないので、過剰に心配する必要はありませんが、蚊が生息する夏から秋にかけては、蚊に刺されにくい服装をしたり、蚊取り線香や虫よけスプレーを使用するなどの対策が必須と言えるでしょう。

お知らせ

ひまわり薬局では、6月に職員が認知症サポーター養成講座を受講し、認知症について学びました。

認知症は誰にでもおこりうる脳の病気で、85歳以上では4人に1人にその症状があると言われており、本人を取り巻く周囲の人達の理解と協力が必要とされています。ひまわり薬局は地域包括支援センターとの連携も図れるようになっておりますので、何か心配な事などありましたら遠慮なくご相談ください。

